



「スピカ」は農業の女神である乙女座の1等星です



2025年
5月1日発行（隔月発行）



生活クラブ 埼玉

特集

協同組合って何？



活動方針は私達で



子ども達と一緒に食育



落ち葉掃きで循環を体験



検査室廃棄物を堆肥化



デポーでも生産者と交流



生活クラブは
協同組合です

組織数と利用

- 3月末組合員数 組合員数 36,372名 共同班 5,232名 個配 26,269名 デポー 4,871名 対期首（2024年4月～）144名
- 利用高（2025年3月1回～3月4回）※展示会除く 総額 775,254千円 世帯当たり平均 24,513円 共同班平均 21,437円 個配平均 25,672円

お客さまではなく主権者になろう！



白井氏を囲んで



講演会の様子

自分たちの生活と社会は、自分たちで決めたい。生活クラブが最も重要視してきた「組合員主権」を学ぶための熊谷ブロック版支部運営委員研修会を2024年6月17日に開催しました。講師は一般社団法人市民セクター政策機構が発行する季刊『社会運動』編集長（当時）の白井和宏氏です。「主権者が消えつつある国で協同組合と組合員主権の価値を考える」と題し、白井氏は日本社会から主権者が消え、消費者が残ることで生活や社会がどのように変化してきたかを述べつつ、消費者ではなく主権者であることの重要性を説きました。

午前は講演、午後は意見交換会とボリウムのある会に、オンライン参加を含め、50名を超える組合員が参加しました。事後のアンケートには多くの感想や意見が寄せられました。「権利について知ることが大切」「今、何をすれば日本が国民主権の国になれるのでしょうか？」と、日本や国民主権についての理解を深めた方、さらには「生活クラブの主権者は組合員」「受け身的な感覚があったが、提案権は組合員にある」といった組合員活動についての気づきを得た方もいたようです。

熊谷ブロック
丸山 香菜子・金子 孝子

生活クラブと連携する協同組合

生活クラブと千葉県漁業協同組合連合会の提携が、ひじきの価値の向上につながった♪

房州ひじきは、製法特性から生じる「シオノコ」と呼ばれる白い粉をカビと誤解され、また、茎が太く、見た目の悪さから価値が低く見られがちでした。この白い粉の正体は、実は旨み成分です。

生活クラブとの提携は35年以上です。組合員が自分たちの目で確認することで、製品特性を理解し、製品価値を見出しました。

生活クラブでは、農協、漁協、森林組合、信用金庫、ワーカーズコープなど、様々な分野の協同組合と活動しています。



ひじきとえびのパスタ
(ピオサボレンシより)

なんでも



聞いてみよう

出資金って戻ってくるの？

出資金は、より良い暮らしとより良い社会を実現していくための事業や活動の運営資金に充てています。金利の支払いが生じ自由度が低い銀行からの借入を必要としないメリットがあります。脱退の際には必要経費(振込手数料)を差し引いた額を払い戻します。

お気に入りの消費材♡

【カレーの壺】プレス・オールターナティブの生産者交流会で作り方を教わり、以降友人たちとおとなのカレー会を楽しんでいます。

【豚肉切り落とし 300g】よやくらぶに登録し毎週2パックが届きます。配達の日が入っている部位に合わせて1パックを使ったお料理を。

【コンソメ顆粒】フライドポテトを作った時はこれをふりかけるとなぜかチーズの風味が！



福田 翔子 さん
(川口ブロック 川口支部)

仕事も活動も趣味も、やりたいことがあれば我慢せず、毎日楽しく過ごしています

生活クラブコールセンターの仕事を終え、手作りマスク姿で現れた福田さん。
お話の合間には、スマートフォンにたくさん保存されているお料理や手作り品を見せていただきました。

「活動ができる」生協を求めて

夫が転勤族で、埼玉に来る前は福岡や熊本のグリーンコープの組合員として活動を楽しんでいました。埼玉に引越すにあたり、職員に活動のできる生協を尋ねたところ生活クラブを教えてもらい加入。5年目になります。だから、生活クラブに加入した理由は「活動がしたくて」です。

川口支部で活動スタート

川口支部のなかに『チームこあら』という子育て中のママたちのグループがあったので、さっそくメンバーになりました。同じ幼稚園に子どもを通わせるママがいたりして地域に友人ができ、情報もいろいろ教えてもらいとても助かりました。『チームこあら』の活動をきっかけに支部活動にかかわるようになり、自分からやりたいと手を挙げて消費委員を2年間務めました。自分の知りたいことを企画につなげることができるので、これまで秋川牧園、和髙スパイス、味輝パンの生産者交流会を行うことができました。

交流会からの拡がり

丸鶏の食べ方が知りたくて企画した秋川牧園の交流会のあとは、毎年

クリスマスに丸鶏ローストをつくるようになり、和髙スパイスの時は夏休みの親子参加でスパイスカレー作りを。このときは我が家の子どもたちも参加し、生産者のお話を一緒に聞かせてもらいました。味輝パンは生活クラブ埼玉50周年記念のまつりで支部の担当生産者だったので、まつりでつくる揚げパンづくりを教わりました。見学会だと制限があつて子どもが参加できないこともあるので、交流会は親子で参加できるのがいいなと思っています。

秋川牧園の交流会。
子どもも生産者が身近に



多趣味です

なんでも手づくりするのが好きで、食べものだったら味噌や梅酒やケーキなどのほかパフェなんかも作ります(笑)。手芸ではお手玉やフェルトの小物など。50周年記念のまつりでは味輝パンのブースにフェルトで作ったパンをかごに入れて飾らせてもらいました。母が作るのが好きなので、自分も自然にそうなると思うし、子どもたちも手作りが当たり前のようによく小物を作ってお友だちにあげたりしています。

やりたいことがたくさん！

2025年度は支部運営委員長でスタート。加入から8週間以内で脱退してしまう組合員が多いというデータがあることを知り、8週間前には組合員にコンタクトをとりたいと今から意気込んでいます。新規組合員の集いの開催頻度をあげるとか電話で直接お話ししてみるとか、具体的に考えています。

コールセンターでは現在週に2、3日半日働いています。また、昨年より生活クラブ埼玉ustageアンバサダーに登録し、自分の手づくりしたものなどを発信しています。どんぐり山の落ち葉掃きの活動にも家族で関わることもあり、毎日いろいろあつて時間が足りないくらい。でもそれ以上に毎日が楽しく、生活クラブの活動をとおしているいろいろな人と知り合えて日々勉強です。



味輝パンをモチーフにした
フェルトのパン

2025年2月取材
編集ワーカーズ・ふれあ

協同組合って何？

協同組合は、共通の目的をもった組合員が自ら出資し、運営し、利用するという点で、株式会社における株主や顧客の関わり方とは異なる組織です。

また、出資の額を問わず、一人1票の原則で民主的に運営される「人と人との結びつき」による組織であることも、協同組合の大きな特徴です。



生活クラブがみんなで力をあわせて実現してきたこと

まっとうな牛乳 1965年～

加工乳が主流だった時代に、成分無調整の牛乳の共同購入からスタートしました。私たちの欲しい安心安全な牛乳は自分たちで作るしかない！と1979年に酪農家と共に“私たちの牛乳工場”を設立しました。

添加物のないウインナー 1970年代後半

添加物のたくさん入った赤いウインナーに不安を持ち、生産者と協力して無添加ウインナーにたどり着きました。

生産者との交流会

生活クラブでは、組合員と生産者の間で交流会や学習会などを開催し、互いの理解を深め、消費材をよりよいものにすることを目指しています。

生活クラブの実店舗 “デポー” OPEN

埼玉では2020年～店舗型の共同購入+まちづくりの拠点として“デポー”を作りました。

Rびんの回収 1994年～

使い終わった容器を繰り返し使い続けるために、配達便で自主的に回収、洗びんし、環境負荷を減らしています。（行政回収のほとんどは、びんを砕いて再生利用しています。その費用の大部分は地方自治体の予算、すなわち私たちの税金で賄われています。）また、配送に不可欠なP袋をきれいな状態で回収し再生利用しているのも生活クラブ組合員だからできること！

石けん運動 1973年～

命と水を守るために、合成洗剤は取り扱わず、石けんへの切り替えを社会に提案しています。

生活クラブでんき 2014年～

2012年、生活クラブ出資で風車“夢風”を建設。再エネで暮らす生活を提案し、実行しています。

たすけあい エッコロ制度 1993年～

気軽にたすけたり、たすけられたり、地域で暮らし続けるために、エコロ制度をさらに充実、“お互いさまのたすけあい”のしくみをつくっています。

消費材のヒミツ、学んで実感！

～産地や交流会で組合員が学んだ消費材の魅力をお伝えします！～

埼玉産小麦の生産を応援！

前田食品㈱は、設立して80年を迎える歴史ある製粉会社です。埼玉県北東部の幸手市に本社と工場があり、国産小麦の旨み・香り・安全性を大切にしています。生活クラブとの出会いは1984年で、40年の付き合いになります。

その素晴らしさは、**取り扱い品のすべてが国産小麦100%であること！**国内の小麦は8割以上を輸入に頼っていることを考えると、これはとても貴重なことです。主な輸入先のアメリカやカナダからの小麦には、**残留農薬***や**ポストハーベスト農薬***の危険性があります。前田食品㈱は、埼玉県内の小麦生産者に声をかけ有機栽培を拡げる活動をしており、有機JASや国際認証も取得しています。

日本の小麦の年間生産量は約100万トン。生産量1位は北海道で、埼玉は9位です。日本では、年間約560万トンの小麦を消費しています。国民一人当たり約32キロ。60年前から同じ量を消費しています。

前田食品㈱が心掛けていることは、「**生きている小麦**」を「**命ある小麦粉**」にすること。自社製粉だからこそで



きる徹底した品質管理で、小麦が持つ自然の旨みを引き出せるよう、日々たゆまぬ精進を続けています。さらに埼玉産小麦ネットワークを立ち上げ、小麦生産者・加工業者・消費者のそれぞれの想いを合わせ、**地域自給率の向上を協働で取り組んでいます**。私たち組合員も、前田食品㈱の消費材を利用し**埼玉産小麦の生産を応援していきましょう！**

*残留農薬：収穫前に使用した農薬が残ること
*ポストハーベスト農薬：収穫後、輸送時の際などにカビや虫の発生を抑えるための農薬

大宮ブロック 峰松 幸江

FEC
自給ネットワーク

生活クラブは、自然と共生し、食べ物（Food）、エネルギー（Energy）、福祉（Care）をできる限り自給・循環させる「FEC 自給ネットワーク」づくりをすすめています。



890万本/年

この数字から 何を想像しますか？

私たち組合員の「2024年度びん牛乳利用本数」です。2023年度の利用本数と比較すると51万本減少しました。約51頭分の牛の一年分の生乳量に当たります。最盛期には1日86tもの生乳が牛乳の原料として搬入されていましたが、現在は半分以上の41tまで落ち込んでいます。牛乳の共同購入から始まった生活クラブですが、私たちの牛乳利用は想像以上に低下しています。



牛乳を共同購入する中で「**自分の欲しい牛乳を作る工場が欲しい！**」という組合員の声により実現した**生活クラブと生産者が共同出資**している牛乳工場、それが新生酪農工場です。

工場に届く生乳は、工場近郊地域の酪農家が育てた牛の新鮮な生乳。**牛が食べるエサも組合員のオーダーメイド、NON-GM（非遺伝子組み換え）の飼料**です。乳牛が育つ環境も、ストレスを感じる事の無いように配慮されています。一頭一頭と向き合い、体調のわずかな変化に気づくほど愛情をかけて育てる酪農家。**生乳本来のおいしさを最大限に活かすパスタライズド製法**で作られた生活クラブの牛乳は、酪農家のたゆまぬ努力に大きく支えられています。

現在、酪農家を取り巻く環境は厳しく、田舎・飼料需要の高まり・世界各地の紛争による燃料価格の高騰など様々な要因によって、牛を育てるコストが過度に上昇し経営を圧迫しています。牛乳の生産は、生き物相手なので「飲まないからいらない」と簡単に片付けられる問題ではありません。私たちの「欲しい、必要だ！」の声に込めている生産者に対し、私たち組合員は他人事のように捉えていて良いのでしょうか？

カタログをみると、牛乳も乳製品も選択肢が増えていきます。**乳製品を利用することは牛乳の利用につながります**。スーパーで販売されている牛乳の



いろいろ選べる♪新生酪農生乳100%の乳製品

投書コーナー

「生活クラブ生協に期待することは？」

- ずばり、ゴミの出ない消費生活！リユース瓶やたまごパックのノウハウを活かして、洗濯せっけんや重曹等のパッケージ、お米、パウチのお惣菜や漬物もリユース容器化してほしい！食べても買っても出るゴミが最小限ならどれだけ豊かでしょう。7代先の子どもたちへ さん
- 昨年、店頭からお米が消えましたが、生活クラブでは安定供給されておりとても助かりました。農家さんとの関係性を築いてきた生活クラブの強みだと思います。これからも日本の農家さんを守ってほしいです！ 翠ペンちゃん さん
- 埼玉県の「コバトンベビーギフト」で他の生協による商品セットが届きました。生活クラブもこの方法なら消費材の美味しさをわかってもらえて、子育てファミリーに浸透するのかなと感じ、事業にトライしてみたいと期待します。 よしよし さん

2025年 9・10月号のテーマは… 「スマホは便利と思う時は？」

投書方法

テーマに関して、意見やみんなに伝えたいことなどをお寄せください。原稿は100字以内です！

投稿してくれた方から抽選で5名に「**国産白桃ストレートジュース**」をプレゼントします。

はがき、FAX、WEBサイトフォームから受け付けます。



《※切：5月30日金 必着》

WEBフォームはこちら→



〒333-0857 川口市小谷場206
生活クラブ埼玉本部（スピカ担当宛）
FAX：048-424-2796

★ 理事会報告 ★ (2月-3月)

● 【生活クラブカレッジ2025開催】

生活クラブ生協が目指している取り組みに対し、理解を深めるための組合員の学びの場として、生活クラブの運動を外部にも発信し、地域の人たちと共にアクションを起こすきっかけとなる機会をつくることを目的に、「生活クラブカレッジ2025」の開催を大人の学校へ委託し、生活クラブと共催です。年7回の講座を予定し、開催案内は、生活クラブ埼玉イベント案内COMEONかもんにて講座毎に案内します。

● 【デポーワークシステム基本方針】

デポーワークシステムは、おおぜいの組合員によるデポー運営の自治をめざした「協同組合」の自主的な参加理念に立った生活クラブならではのしくみとして、デポーを運営する上で必要な作業を、組合員が分担しておこないます。デポーワークへの参加を通して、参加する組合員同士や、デポーの運営を担うワーカーズ・コレクティブとのコミュニケーションを豊富化し、組合員とワーカーズ・コレクティブの協働を通して、「おおぜいの人が関わる」デポー運営をすすめていきます。

生活クラブ埼玉50周年



50周年記念事業 記念誌作成

5月下旬配布

6月以降HPにも掲載予定

「未来へつなぐ生活クラブ」

coming soon!

～これまでの50年、これからの50年～

生活クラブ埼玉が設立されてから50年が経ちました。この50年間には、多くの組合員が入れ替わり登場し、活動に参加してきました。誌面からは、歴史を振り返りながら、さまざまなつながりがあることを再発見できます。そして、生活クラブを未来へずっと続けていくために、50周年記念誌実行委員会から、活動のヒントも提案しています。

ホームページからも紙面を見ることができます。↓



生活クラブ埼玉創立のきっかけ

生活クラブは東京から始まり、消費材の共同購入に取り組んでいました。埼玉でも、その消費材を欲しい人たちが集まって始まりました。協同組合を作り上げてきた創立時の組合員や職員の想い等を振り返ります。

生活クラブはサステナブル

地球温暖化は年々深刻になっています。生活クラブは持続可能なエネルギー、環境保全を考えています。あなたと一緒に考えたい、サステナブルな暮らしについて紹介しています。

生活クラブの活動って何？

「何を活動と言うの?」「何に参加すればいいの?」組合員が知りたい生活クラブの『今』を伝え、気楽に参加できる場所やツールを紹介します。

中身を
ちょっと
ご紹介♡

生活クラブと地域のつながり

「自分の住んでいるところでずっと暮らしたい。」という人が増えています。そんな希望をかなえるのが、たすけあいの仕組みです。生活クラブがまちづくりをすすめるための重要な拠点である生活館・くらぶメゾン・くらぶルーム、運動グループなどの関連団体を紹介します。

生活クラブをもっと知りたい

組合員が仲間を集めて班を結成し、毎週、豚肉を切り分け、卵の数を数える……といった初期の活動から、ここ最近の活動紹介、50周年記念事業や関連イベントなどの報告まで、50年間のエッセンスをぎゅっと詰めました。活動をより豊かにする書籍もピックアップしました。

※画像は表紙のイメージです